

カッパとして今この時



mikatuki98

今この時は、カッパのボクにとってどんな意味を持つ？ と自問自答してみた。

するとボクの頭にあるお皿の水に3日前から棲んでいるアメンボウがテレパシーを送ってきた

。

『進むべき方向が定まり始めています』

カッパのボクが進むべき方向？ 川の水が流れていれば、その流れに従うまでだ。それがカッパのボクには自然なことだと思う。 けどこのところお天道様がガンガン照りで川の水も随分減ってしまった。 流れに身を任せようにも石だの草だのにひっかかってどうもイカン。

そんな不満を心に抱いていると、アメンボウがまたテレパシーを送ってきた。

『今この時は、あなたに前進を促しているのです』

だけど、川に水も無いのにカッパのボクがどうやって前進すればいいのだろうか？ まさか泳ぐのをいっそのこと止めにして、水かきがちょっと邪魔だけど二本の足で歩いて行けというのだろうか？ ボクが無意識のうちに枯れかけている川沿いを歩きながら考えていると、アメンボウが三度目のテレパシーを送ってきた。

『考えている通りに実行していいのだ』

そうだな。 考えもしないことを実行に移す方が無理ってことだ。 アメンボウに言われたからという訳でも無いが、メッセージを受け取り勇気を得ている自分に気が付いた。

ははは、何だか愉快だな。 今、するべきことがわかってくると心にも余裕が生まれて来るものだ。 となると、ボクはボクの考えていることに邁進する為に、カッパとしていつ何時（なんどき）川の水が増えて泳げるようになってもいいように、頭の皿をピカピカに磨いておくとか、手足の筋肉を鍛えてより迅速に細やかな動きが出来るように力を蓄えておいたりとか、そうそう、背中の中にも苔が生えてしまわないように糸瓜摩擦をしないとな。

川に水がなければ進めないと途方にくれていた三日前が嘘のように感じる今。 何だか知らないが、揺るぎない自信が芽生え始めているボクには、知らず知らずのうちに凜とした強さが具わって来た気がして来た。

ボクが頭の皿がカラカラにならないようになけなしの川の水を掬って頭の皿に注ぐと、アメンボウが今度はテレパシーではなく、声を出して呟いてた。

「気持ちがいねえ～ 嗚呼心地いい水面だねえ～」

けどボクはアメンボウのことなど気にも留めず、カッパのボクは日が暮れるまでひたすら川沿いを歩き続けた。